

市の資産と負債の状況のポイント

○市民1人当たりの資産と負債 ⇒純資産比率は71.7%

資産 約253万円(前年度 約254万円)

負債 約72万円(前年度 約74万円)

市が持つ資産のうち負債を差し引いた正味の財産の割合を示す純資産比率[純資産合計(b) / 資産合計(a)]です。
他市町村の平均値が6~7割ですので、山武市は平均的な比率です。

○施設や道路などの将来世代への負担

今までの世代の負担 86.4%(前年度 85.3%)

将来世代負担13.6%(前年度 14.7%)

施設や道路など公共用資産に対する、各世代の負担割合。 純資産合計(b) / 公共資産で算出しました。
(平成23年3月末人口:57,223人)



資金収支計算書(キャッシュフロー計算書)

現金の流れを示すものです。その収支を性質に応じて、区分して表示することで、市がどのような活動に資金を必要としているのかを表示します。

期首資金残高	49 億 4 千万円
期末資金残高	50 億 7 千万円
当期収支	1 億 3 千万円
1. 経常的収支☒ 税金、国庫支出金、人件費など	65 億 5 千万円
2. 公共資産整備収支	△57 億 8 千万円
3. 投資・財務的収支	△6 億 4 千万円

純資産変動計算書

市の純資産(資産から負債を引いた残り)が平成22年度中にどのように増減したかを明らかにするものです。総額としての純資産の変動に加え、それがどのような財源や要因で増減したかの情報を表示します。

期首純資産残高	1,045 億 3 千万円
純経常行政費用 	△286 億 3 千万円
その他の減少	△87 億 6 千万円
財源調達 (市税、地方交付税、国県補助金)	339 億 4 千万円
その他	26 億 7 千万円
期末純資産残高	1,037 億 5 千万円

行政コスト計算書

市の経常的な活動に伴うコストと使用料・手数料等の収入を示すものです。従来の官庁会計では補足出来なかった減価償却など非現金コストについても計上しています。経常費用合計から経常収益合計を差し引いたものが当該年度の純経常行政コストとなります。

経常費用	372 億 1 千万円
1. 人にかかるコスト☒ 人件費、退職手当引当金繰入など	82 億 6 千万円
2. 物にかかるコスト 物件費、減価償却費、維持補修費など	89 億 2 千万円
3. 移転支出的なコスト 他会計への支出、社会保障給付など	200 億 3 千万円
経常収益☒ 使用料・手数料等	85 億 8 千万円
純経常行政コスト (経常費用－経常収益)	286 億 3 千万円

資産と負債のバランス

資産合計 1,447 億 2 千万円(1人あたり約 253 万円)と負債合計 409 億 7 千万円(同約 72 万円)からわかるように、資産は負債の約 3 倍(純資産比率 71.7%)ありますので、この面では、現在の山武市の財政は健全と言えます。

市民1人当たりの職員人件費

行政コスト計算書の「1. 人にかかるコスト」を人口で割ることで市民1人当たりの職員人件費が算出できますが、山武市は年間約 14 万円です。

問 財政課 ☎(80) 1121

ホームページではより詳しい資料を掲載しています。
<http://www.city.sammu.lg.jp/soshiki/5/>



新地方公会計制度に基づく

市の財務書類【平成22年度決算】



市では、民間企業の会計手法を取り入れた「新地方公会計制度」に基づく財務書類4表（貸借対照表・行政コスト計算書・純資産変動計算書・資金収支計算書）を作成し、公表しています。平成22年度決算について、関係する各組合（山武郡市広域行政組合、山武郡市広域水道企業団など）の財務書類と連結させた連結財務書類を作成しました。

バランスシート（貸借対照表）

貸借対照表は会計年度末時点において、資産と、その資産をどのような財源（負債・純資産）で賄ってきたかを一目でわかるようにしたものです。左側に資産を表示し、右側に負債および資産と負債の差額である純資産を計上しています。

資産の部（これまで積み上げてきた資産）			負債の部（将来世代が負担する金額）		
1 公共資産	(1)事業用資産 庁舎、保育所、学校、 保健センターなど 	405 億 5 千万円	1 固定負債	(1) 地方債	292 億 6 千万円
	(2) インフラ資産  道路、公園、上下水道など	795 億円		(2) 退職手当引当金等	63 億 9 千万円
2 投資等	(1) 投資および出資金	7 億円	2 流動負債	(1) 翌年度償還 予定地方債	36 億 4 千万円
	(2) 基金等	148 億 1 千万円		(2) その他	16 億 8 千万円
3 流動資産	(1) 資金	50 億 7 千万円	負債合計		409 億 7 千万円
	(2) 未収金など	40 億 9 千万円	純資産の部（現在までの世代が負担した金額）		
資産合計 (a)		1,447 億 2 千万円	純資産合計 (b)		1,037 億 5 千万円
			負債および純資産合計		1,447 億 2 千万円

資産とは？

バランスシートの項目にあるような施設や道路、基金、現金などです。市民の皆さんにこれから提供する行政サービスの基盤となるものです。資産が多くなることで、より良い行政サービスの提供ができます。

負債とは？

資産にあるような施設等の整備のために借りた地方債の返済金や市職員の退職給与引当金（現在の市職員が全員退職したと仮定した場合に必要な退職金）です。負債が多ければ、財政状況が厳しくなります。